



第 18 回理事会

2008 年 4 月 12 日に第 18 回理事会が開かれました。賛助会員の入会を承認した後、議題に入りました。2008 年度に入りましたので、主として本年度の方針が中心となりました。

今年は IYPE のコア年でもありますし、いよいよジオパークも本格的に始動します。ジオパークガイドなどのことを考えると、GUPI 会員を大幅に増やして、全国各地で活躍していただかなければなりません。こうした会員の日常活動を基本に据えることが NPO の本来の姿でもあります。そこで、今年度から会費を安くして会員を大幅に増やすことにしました。次のような定款変更を総会にお諮りしようと決めました。

1. 入会金を無料とする。
2. 正会員の会費を一口 2000 円とする。
3. 会費無料の準会員（学生会員）の新設

その後の理事会で正会員は現状のままとし、
1 口 2,000 円のサポート会員 [定款上は賛助
会員（個人）] を新設する事になりました。

当機構の本来業務である地質地盤情報の利・活用事業については、国交省がボーリングデータの無償公開を始めたので、データ公開の流れが加速されましたから、積極的に自治体に働きかけ、受託の獲得に努めることにしました。その他、地質図の普及公開等に関する委託研究なども積極的に行います。

ジオパークについては、近々日本ジオパーク委員会が発足し、評価認定が始まりますから、各地域の整備や申請について支援するとともに、日本ジオパークネットワーク設立のための事業もいたします。ジオパークガイドの養成についても各方面と協議しながら進めます。6 月ドイツで開催される国際会議へも参加します。

昨年度出版された『日本列島ジオサイト地質百選』は 3 刷りまでいきました。新しい企画がオーム社との間で動き始めています。JTB 出版とも新しい出版計画が進行中です。地質の日に協賛して行う「宮澤賢治ジオツアー」はリピーターの出る企画にしていきます。

平成 20 年度総会

平成 20 年 6 月 14 日（土）午後 2 時～

場所：文京区シビックセンター地下 2 階研修室 A

特別講演：宮澤賢治の地的世界...加藤碩一氏（産総研フェロー）

宮澤賢治ジオツアー実施

5月17～18日標記ジオツアーを実施しました。総勢28名で半数が女性でした。朝日新聞の記事を読んで参加された方が半数おり、遠く北九州からのご参加もありました。

新花巻駅前のセロ弾きのゴーシュ像前で集合した後、レストハウス山猫軒で食事をし、宮澤賢治記念館を見学しました。そこからポランの広場を經由してイーハトーブ館まで散

策しましたが、新緑が見事で皆感嘆していました。その後、バスでイギリス海岸に行きました。イギリス海岸はダムが出来たため、広い河原は露出していませんが、それでも材木の化石が入っているのが見えました。次いで、羅須地人協会と雨二モ負ケズ詩碑を見ました。協会内には残念ながら入れませんでしたが、外からはよく見えました。古いオルガンと木の椅子があり、当時の様子を彷彿とさせます。参加者には賢治ファンが多かったので、「ぎんどう」とはウラジロハコヤナギのことで、詩碑のところにある大木がそれだ、などお互いに教えあったりして、和やかでした。

花巻温泉に浸かり豪華な夕食をとった後、「宮澤賢治の夕べ」を開きました。記念館副館長牛崎敏哉氏による詩の朗読と熱のこもった一人芝居があり、堪能しました。次いで、案内者の産総研加藤碩一氏による講演があり、賢治の色は青で、さまざまな青色の鉱物が出てくること、夕陽の黄色と朝日の黄色では鉱物を使い分けているといった話が新鮮でした。

2日目は釜淵の滝を見学しました。ここで地質標本館長青木正博氏から安山岩のプレゼントがありました。華厳の滝の裏側に掘った



イギリス海岸



羅須地人協会



羅須地人協会跡



熱演する牛崎氏

縦坑から採取したもので一般人には絶対採れない貴重なものだそうです。その他、要所要所でその場に関係する岩石鉱物(流紋岩や玉随など)のプレゼントがあり、その解説が大変面白く、非常に好評でした。次いで南昌山の岩頸を見て幣懸の滝を見学しました。その後、御所湖経由で小岩井農場に行きました。天候にも恵まれ岩手山がきれいに見えました。それから賢治が中学時代に通った鬼越の道を通って岩手大学に行き、農業教育資料館(旧盛岡高等農林学校本館)を見学しました。賢治が採集した岩石のサンプルや当時の顕微鏡など陳列しており、皆興味深そうに見学していました。最後は、賢治や啄木が良く来たという盛岡城跡公園です。花崗岩の露頭が一部石垣代わりに使われていました。

最後に、アンケートをとりましたが、大満足との声が圧倒的で、次は石見銀山をといった注文までありました。加藤氏の準備して下さった丁寧な解説資料と青木氏の標本プレゼント、牛崎氏の熱演がとくに好評でした。

周到な準備と案内をして下さった加藤氏、標本のプレゼントを用意して下さった青木氏、熱演して下さった牛崎氏および旅行全般を取り仕切っていただいたジオプランニング立澤富朗氏に感謝します。



加藤氏の説明を聞く一行



標本の解説をする青木氏



小岩井農場と岩手山



岩手大学農業教育資料館



記念写真

文献：加藤碩一『宮澤賢治の地的世界』
愛智出版，2006年刊，¥2,200

日本ジオパーク委員会発足

2008年5月28日
(水) 産総研秋葉原事業所大会議室において、第一回日本ジオパーク委員会が開催されました。



本委員会は、世界ジオパークネットワークへの日本からの申請候補地域を選定するとともに、日本ジオパークを認定します。委員は下記の通り大学、学会、関連団体等の専門家11名からなり、事務局は産業技術総合研究所が務めます。また、関連する省庁から14名のオブザーバー参加がありました。

外務省斎藤国際文化協力室長からは、来日中の松浦ユネスコ事務局長に日本ジオパーク委員会が発足することをお話したところ、「日本のジオパークが世界にアピールできることは喜ばしい」とおっしゃっておられたとのご紹介がありました。

委員会では、運営の取り決めやジオパーク活動の経緯・現状等の報告に続き、審査・選定の手順や日本ジオパークの認定方針などについて、活発な質疑応答・議論が交わされました。現状では、審査基準は世界ジオパークネットワークの基準に準ずることとするものの、将来は日本の独自性を考慮できるよう改善すべきとの認識になりました。

委員会では、まもなく世界ジオパークネットワーク申請候補地域及び日本ジオパーク認定地域の募集を開始することとしました。次回の委員会は、9月4日に開催される予定です。

<委員名簿>

- 伊藤和明 NPO 防災情報機構会長
- 尾池和夫 京都大学総長(委員長)
- 加藤碩一 産業技術総合研究所フェロー
- 小泉武栄 東京学芸大学教授
- 鹿野久男 (財)国立公園協会理事長
- 瀬古一郎 全国地質調査業協会連合会会長
- 高木秀雄 早稲田大学教授(日本地質学会)
- 中川和之 時事通信社編集委員(日本地震学会)
- 中田節也 東京大学地震研究所教授(日本火山学会)
- 町田 洋 首都大学東京名誉教授(副委員長:日本第四紀学会)
- 松本 淳 首都大学東京教授(日本地理学会)

<オブザーバー>

外務省、文科省、文化庁、農水省、林野庁、経産省、国交省、環境省